



かんろ
寒露（8日）… 空が澄み、柿の実が色付き始めます …

先日、第二校庭で遊んでいると、広い空にひつじ雲がきれいでした。彼岸花から金木犀へと花の匂が移り変わりました。香っていた金木犀も雨が降ると花びらが散り、オレンジの絨毯のようになります。そろそろ、裏庭の柿も色付き始め、ブドウも食べ頃になります。

<蟋蟀在戸 きりぎりすとにあり 10月18日～22日>

寒露の末候は「蟋蟀在戸」です。ここで言うキリギリスは、コオロギのことで、盛りは過ぎているものの鳴く虫が暖かい家の傍に来て、もうひと鳴きする頃だそうです。

<共通のイメージの源は>

年中組でおばけのイメージが広がり、遊びが膨らんだのは9月の誕生会で担任が見せたおばけのパネルシアターが大きなきっかけです。ドキドキする内容に引き込まれた子どもたちは、おばけとのやり取りに徐々に興奮して、途中からはとてもじっと座っていられませんでした。みんなが心を揺り動かされたこの体験こそが、その後のおばけに関わる様々な遊びのイメージの源泉となりました。

<さらに不思議なことが…>

その後、「おばけのくにの王様」から、本物のかぼちゃや不思議な手紙などが届き、どこかでおばけの王様が見ているかも、というワクワク感が膨らんでいきました。そのたびに、おばけに関連した遊びや物作りが盛り上がり、ワクワクする出来事をみんなが体験しているので、誰とでも話が通じるころがポイントです。しかも、おばけには決まった姿や形がないので、描いたり作ったりする活動では自由に伸びやかな表現ができるのです。

<伸びやかな表現を生み出す指導の工夫>

普段から自分を素直に表現し、友達と豊かな関わりができることを大事にしています。その中でも絵や製作では、心が満たされ、解放されていなければ伸びやかな表現は生まれません。今回は、幼児の特性や子どもたちの実態を考慮して、いろいろな指導の工夫をしたことが功を奏して、楽しい表現や作品づくり、遊びを楽しむ姿につながりました。担任たちの指導力が高まってきたことも、大きな喜びでした。



おばけマンションのパネルシアター



お話しに引き込まれるにつれて大興奮！



ちょっと見て、また手紙が届いたみたい！



おばけのくにの王様からは何度も手紙が



カラービニールで作ったおばけは発想も姿も自由奔放で、子どもたちの分身のようでもあります。愛着をもってかわいがっています。



蛍光絵の具で描いたおばけは、個性豊かでダイナミックな表現でした。ブラックライトなどの演出で一層豊かな表情を見せてくれました。